

2025-01-26

聖書箇所 ローマ人への手紙 5 章 17 節

メッセージ題 「キリストにあって神の義に立つ」

私がキリストの義というこの題に強く惹かれたのは、そもそも神の義をさらに深く知りたいという思いからです。そして、私たちはキリストの義をまとったのですから、人の目を気にする、人の評価を気にして世に合わせて、神様のみこころに焦点を合わせず、弱々しく無難に生きようとするのではなく、御国の鍵をいただき、イエス・キリストにある権威と力をいただいたものとして、遺憾なく力強く証しを立てていきたいと思うからです。罪は完全に赦され義とされたのです。

人々は、福音を知らずに世と歩調を合わせて、肉の欲求の思いのままに、歩んでいます。私たちもその影響に巻き込まれて、傷を受け、同調してしまい、疲弊してしまいます。キリストが私たちの中心となっているのでしょうか。自分の肉を満足するために事を行っていないのでしょうか。私たちがキリストを信じ、キリストのものとなったのなら、キリストの弟子であり、キリストに従うものであり、キリストの奴隷です。このことでも、凄いことですね。

それでは、今日の聖書箇所をお読みします。

ローマ 5:17 「もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちによって支配するようになるのです。」

1. 神の義とは

みなさん、そもそも神の義とは何でしょうか？

申命記 32:4 に「主は岩。主のみわざは完全。まことに主の道はみな正しい。主は真実な神で偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。」とありますが、神の律法と人の定めた基準に合うこと、またそれに従って生活することであり、「義」は神の本質です。しかし、人間はその基準に達することはできず、神の要求を満たすことはできません。

2. 神様は義なるお方

第一ヨハネ 4:10 では、「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛が

あるのです。」とあります。

神様の義、ある意味怖さもあります。しかし、御子はその罰を受けられたのです。だから、救いはそれほども素晴らしく、大切なのです。神が私たちを愛されたので、私たち罪人が受けるに値する罰から救い出すために、御子を送ってくださったのです。私たちは、途轍もない罰を受けるべきものでした。私たちが義とされる理由は全くなかったのです。

イザヤ 45:19 後半では、「わたしは主。正義を語り、公正を告げる者。」とご自身が神であると語り、ゼパニヤ 3:5 では「主は、そのただ中において正しく、決して不正を行われぬ。ご自分の公正を、朝ごとにくまなく照らす光とされる。」神が義であり、その本質、性質が義であり、神様ご自身が、何が正しいかの基準です。また、詩編 89:14 では、「義と公正はあなたの王座の基。恵みとまことが御前を進みます。」神様は人との関わりにおいて、全てにおいて公平であり、公正です。

ローマ 3:26 に次のように書かれています。「すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。」イエス様ご自身が義であり、イエス様を信じるものは義とされるとあります。罪あるものは、自分の努力や律法を守ることでは、到底義と認められません。神様は律法によって私たちを救うことはできません。

I コリ 5:21 には、「神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。」私たちがキリストの義のゆえに義とされます。キリストが私たちの罪を贖い、値なしに義と認めてくださいます。

キリストを信じる信仰によって義とされました。それは、信仰による恵みによって与えられました。人は義とされるには神の恵みしかありません。私たちの義は、キリストの身代わりの苦しみと勝利の復活の結果です。ですから、私たちがどれほど邪悪で生きて来たかは関係ありません。神からどれだけ離れているか関係ありません。私たちに必要なのは、神の義を受け入れることだけです。

エペソ 1:7 で「このキリストにおいて、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」キリストの血による贖いは私たちに神の義をもたらしました。人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によります。ですから、キリストのなされた真実な愛に

対して、応答していきたいと思います。

ですから、私たちは自分が墮落していることを嘆いているのではなく、キリストに目を注ぎ、神様が、「あなたは義である」と認められていることに目を注ぎます。私たちが罪人であることを知ると同時にキリストは聖なるお方であることも知りました。すべての罪はキリストに置かれました。今私たちはキリストの中に、キリストのいのちの支配の中に立っています。ですから私たちは「**キリストにあって完全なもの**」です。コロ 2:3「**キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。**」このお方の内にいるのです。

キリストにあって完全なものであるのです。キリストにあってですよ。私たちはもはや自分のものではなく、キリストのものであります。私たちはキリストの内において、現在進行形で、いのちの支配の中にいます。キリストに受け入れられている者なのです。私たちの信仰の歩みを阻み、証しの力をそぐ、無難に過ごそうとか、今はキリストのことを語らなくていいという後ろ向きな思いを捨てませんか？御霊に満たされた生活を行い、どんな時でも、キリストを証ししていきましょう。何か恐れることはありますか？キリストが神の御座におられるように、私たちもキリスト御座に引き上げられます。神の義を得ることは、私たちの内側を成長させてくださいます。そして、キリストに従って歩む力が与えられます。人の目を気にしていた生き方が、人に影響を及ぼす者へと変えられていきます。

神様が罪を認めない人として、ヤコブを見ることが出来ます。彼は欺きの罪にかかわらず、神に創世記 28:13-15 で「**そして、見よ、主がその上に立って、こう言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。**」

ヤコブは祝福されました。彼には、そのような祝福を受ける資格はありませんでした。ヤコブが祝福されたのなら、恵みの新しい契約の中にいる私たちはどうでしょう。私たちのすべての罪は赦され、祝福されているのです。

3. キリストによるいのちの支配

私たちは、キリストにあって完全なものです。そして、もう一つ注目したいのが、キリストによるいのちの支配です。キリストによるとあるように、この力は自分自身の中にはありません。恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちはとあるように、今現在キリストの支配である、権威と力を私たちは持っています。それは、死さえ支配する者です。

マタイ 16:18-19 でペテロがイエス様に「あなたは生ける神の子キリストです。」と答えた後に主は「そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。」と言われました。イエス様は御国の鍵を与えと言いました。鍵はとても大切なものですね。大事な鍵を任せられ、キリストの権威をもって、人々を御国へと導くべく、救い主イエス様を宣べ伝えることです。そして、私たちは敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けられているのです。

今の世界を見る時に、迫害のさなかにある国や地域では、御国が広がり、キリスト者が増えているのではないかと思います。かつて中国では、宣教師が追放された時、祈りに導かれました。御国の鍵を用いることを始めたのです。キリスト者が主の御名によって祈るなら、聖霊の力あるわざを見ることとなります。主は、私たちを全く新しいものとするために、古いものを砕かれます。それは、イエス様に似るために苦難を通り、みこころを行うためです。18年現在では、中国のクリスチャン人口は1億2千万人という報告もあるそうです。

4. 神の義を喜ぶ

また、ローマの 14:17 では、「なぜなら、神の国は食べたり飲んだりすることではなく、聖霊による義と平和と喜びだからです。」とあるように、私たちは、義とされたことを喜び楽しんでいるでしょうか！聖霊に満たされた人とは、神との親しいかわりに支えられながら、そのかわりを楽しむことができる人でしょう。

詩篇ではそのことが次のように記されています。

詩篇 32:1 「正しい者たち主を喜び樂しめ。すべて心の直ぐな人たちよ喜びの声をあげよ。」

詩篇 35:9 「私のたましいは主にあって喜び御救いの中にあつて楽しみます。」

黙示録では、19:7 で「私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時に来て、花嫁はその用意ができたのだから。」

ヨハネ 3:29「花嫁を迎えるのは花婿です。そばに立って花婿が語ることに耳を傾けている友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。ですから、私もその喜びに満ちあふれています。」

皆さんはどのような時に喜びますか？結婚、出産があるかもしれませんが、でも、新しく救われた方、イエス様を信じ受け入れた方が起こされた時はどうですか。皆で喜びますね。パウロが、Ⅱコリント 8:1-4 で、「さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思えます。彼らの満ちあふれる喜びと極度の貧しさは、苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、惜しみなく施す富となりました。私は証しします。彼らは自ら進んで、力に応じて、また力以上に献げ、聖徒たちを支える奉仕の恵みにあずかりたいと、大変な熱意をもって私たちに懇願しました。」

ますます自分自身をささげたのです。素晴らしいですね。私たちは、素晴らしいイエス様に自分を明け渡し、ささげることができます。このことに熱心になっていませんか？イエス様は迎えに来てくださるのです。このことに目を向けているでしょうか？

喜びを失うのは、心配です。この世の思い煩いで動揺する、経済的なことで心配する、そうあっては喜ぶことはできません。マタイの福音書では、心配するなどと告げています。

5. キリストにあって神の義に立つ

今は混乱と対立の中に、闇はますます深まり、悪しき出来事が多発しています。自分中心の思考の人が多くことでしょう。何事も、自分自分となりますが、そうではなく敬虔な人は神の国と義を求めます。神の国のために惜しみなくささげるのです。主はあまりにも素晴らしいお方なのです。

マタイ 5:15-16 では、「また、明かりをともして升の下に置いたりはいしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。」とイエス様はおっしゃっています。私たちは不条理の多い社会の中で、表に出てキリストの光を輝かせましょう。キリストの福音を宣言する、このことで、人々の心にキリストの光が灯されるのです。

パウロは、第三次伝道旅行を終えてエルサレムに行く途中、エペソの長老たちに説教をしました。そこには主への彼の思いが詰まっています。使徒 20:19-20 で「私は、ユダヤ人の陰謀によってこの身に降りかかる数々の試練の中で、謙遜の限りを尽くし、涙とともに主に仕えてきました。益になることは、公衆の前でも家々でも、余すところなくあなたがたに伝え、また教えてきました。」彼は苦難の中でさえ伝え教えていました。厳しい過酷な状況の中でも語り続けること。彼は任務を全うして務めを果たすことのみを見つめていて、それは主イエス様の恵みの福音を証しすることでした。私たちは御霊によって主との交わりをし続け、みことばを守り続け、主を証し続けていくのです。

パウロは使徒 20 :31-32 で続けて「ですから、私が三年の間、夜も昼も、涙とともにあなたがた一人ひとりを訓戒し続けてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものとされたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。」と言っています。

このように、御国の広がりの方、キリストにしっかりとつながってたいです。キリストにつながり、教えられたことを忠実に行うべく、心を主に向けるよう、御霊により頼んでいきたいです。御国はイエス様のおられるところです。どれほど素晴らしいところでしょうか。

へブル 12:28 では、「このように揺り動かされない御国を受けるのですから、私たちは感謝しようではありませんか。感謝しつつ、敬虔と恐れをもって、神に喜ばれる礼拝をささげようではありませんか。」とありますが、心から感謝をもって、どんな時でも、歩んでいきたいです。